

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>(1) 科学研究費助成事業基盤研究 (C)「近世ロンドンの給水事業に関する研究」(研究代表者:唐澤達之)による研究</p> <p>2017年度より3年間、標記研究課題で科学研究費助成事業に採択された。近世ロンドンでは、私的な給水事業会社が、巨額の資本金を調達して、テムズ川や新たに建設した水路及び貯水池から大量に汲み上げた水を水道管で個別世帯に供給するシステムを成立させた。本研究はこの歴史的意義を検討すること企図している。</p> <p>2019年度も、近世ロンドンの給水事業に関する文献の収集と研究史の整理を進めるとともに、8月下旬には、ロンドン市文書館とイギリス国立公文書館において、近世の給水事業会社に関連する史料の収集を行った。昨年度に引き続き、代表的な給水事業会社のひとつであるチェルシー給水事業会社の会計記録のデータベース化、理事会議事録の転写を進めた。これらの史料を利用して、資本調達の方法と出資者の社会層、事業会社が提供するサービスの内容や給水の地理的範囲と収益の規模、顧客の社会層、企業の統治のあり方等の点に留意しながら、当社の経営分析を行った。</p> <p>上記の作業は、2018年度から継続して進めてきたが、2019年6月2日に開催されたイギリス都市農村共同体研究会において、その研究成果の一部を「近世ロンドンの給水事業会社—Chelsea Waterworks Company について—」という論題で報告した。また、その報告内容の一部をもとに執筆した「18世紀ロンドンの給水事業—チェルシー給水事業会社の経営分析—」が『比較都市史研究』38巻(2019年12月刊)に掲載された。</p>	
<p>(2) 学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会の企画運営、会誌『比較都市史研究』の編集刊行、会計の管理などに関わった他、学会運営のあり方について大きな改革を進めた。</p>	
<p>(3) 大学行政関連業務</p> <p>副学長として、学内の種々の委員会を主宰し、全学的な観点から本学の改革・発展の推進に関わった。2019年度は特に、2018年度にまとめられた基礎教育センターの設立に関する答申に基づき、基礎教育センターの設立の準備を進め、諸規程の整備などに関わった。また、ホームカミングデイ委員会委員長として、ホームカミングデイの実施に関わった他、同窓会の地方支部総会(大支部)への出席等を通じて、同窓生と大学の連携事業にも関わった。</p>	
2 その他の事項	
3 次年度以降の計画・抱負	
<p>□ 研究関連では、科学研究費助成事業基盤研究 (C) の研究期間を成果のとりまとめのために1年間延長し、チェルシー給水事業会社の経営分析を19世紀前半にまで拡張するとともに、ロンドンの他の地区における給水事業会社についても研究を進める。</p> <p>□ 大学行政関連では、副学長として、第2期中期計画(2017年度~2022年度)に基づき、全学的な観点から本学の改革・発展を推進することが大きな課題となる。特に、2020年4月に設立される基礎教育センターの長に指名されたので、当センターの運営に力を入れたい。</p>	